赤川先生の思い出

M⑪　松居基夫

卒業後、50 年以上経って、さすがに色々の思い出がぼんやりしてきている最近、坂口忠司先生から「赤川先生の思い出」について 11 回生も誰か書いて欲しいと云われて、遠い記憶を訪ねてみることにしました。

大学の最終学年で、ゼミというか卒業研究というのか、初めて指導教官の下で研究をすることになって、やっと大学らしい雰囲気を味わうことになった時、さて何を研究するかという段になって、私の場合はどの教授に教えていただくかで決めることにしたように思います。そしてその際、赤川浩爾先生が一番とっつきやすいなということで 6 講座に決めたのが赤川先生との関係の始まりになりました。

当時は、新長田の西代校舎から、六甲台の新校舎に移転したばかりで、実験施設も最初から作りながらという状態で、結果的には研究というより皆で集まって楽しんだというのが実態で、先生の研究室の隣に、我々の勉強部屋を与えていただいて、8 人が講義の無い時や終了後、そこでわいわい騒いでいたことを思い出します。

当時、テープレコーダーがやっと我々にも手に入るようになっていて、それを持ち込んで音楽をかけたりして、隣室の先生に結構ご迷惑をかけたかなと今になって反省します。

先生のお人柄は、それで選んだとおりの気さくなお人柄で、常に対等に接していただき、実験結果の考察などは一緒に同じ目線で考えて下さいました。また一緒にバドミントンなどで楽しく汗を流したこともよくありました。

そんな中で今でも思い出す一シーンは、先生のお部屋に何かのご相談をしようと思って、失礼にもドアをノックして返事も聞かないでドアを開けて中に入った時のことです。先生は机に坐らず、部屋の中をぐるぐる歩き回っておられました。何か一所懸命思索しておられたようでした。この思考スタイルは私のその後の人生に大いに影響を与えました。何か考えが定まらない時、新しいアイデアを模索する時、私はとりあえず歩くことにしています。歩きながら考えると、リズム良く思考が前に進みます。そこで纏まらなくても、その後でアイデアが生まれたりしますので、現役時代も今も、歩きながら考えるということを伝授いただいたように思っています。

卒業後すぐに就職せず、大学院に進むことを決めた時も、先生にお世話になりました。当時、新制大学工学部に大学院を設置することが始まった時代で、神戸大学にも出来そうだということで、そのつもりをしていたのですが、結果的には、選から漏れ、認められたのが横浜国立大学と広島大学でした。先生と相談して、横浜のほうに決めました。神戸には翌年設置が決り、神戸大学工学部大学院一期生にはなれませんでした。

横浜には、6 講座の研究内容に相当するものが無く、流体の動的解析に関連したものと

して制御工学を選びましたので、その後の先生との接点が薄くなってしまったのは残念ですが、人生の方向を定める時にお世話になったことを今も感謝しております。

（ 終 ）

追悼文受付日：平成 29 年（2017 年）2 月 17 日　赤川先生－31